

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	人形浄瑠璃
----	------	----	-------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんあわじにんぎょうかい 公益財団法人淡路人形協会	団体ウェブサイトURL	https://awajiningyoza.com/ja/office
代表者職・氏名	理事長 正井 良徳		
制作団体所在地	〒 656-0475 兵庫県南あわじ市市三條880	最寄り駅(バス停)	中央公民館前(バス停)
電話番号	0799-42-6060		
ふりがな 公演団体名	あわじにんぎょうざ 淡路人形座	団体ウェブサイトURL	https://awajiningyoza.com/ja/
代表者職・氏名	統括責任者 福田 龍八		
公演団体所在地	〒 656-0501 兵庫県南あわじ市福良甲1528-1地先	最寄り駅(バス停)	福良(バス停)
制作団体 設立年月	1964年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 正井良徳 副理事長 濱本 勇 副理事長 上居宏次 事務局長 福原敬二 淡路人形座統括責任者 福田龍八	淡路人形座: 太夫4人、三味線弾き2人、人形遣い10人、事務員2人 理事長、副理事長、事務局長による作文、面接及び実技(技芸員のみ)試験、評議員会による承認	
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	島田 健太郎
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	島田 健太郎

<p>制作団体沿革</p>	<p>1964年 淡路人形座設立 1969年 淡路人形浄瑠璃育成保存会設立 1970年 淡路人形浄瑠璃育成保存会を淡路人形協会と改称 1976年5月4日 淡路人形浄瑠璃が国指定重要無形民俗文化財に指定された 1977年 淡路人形協会と淡路人形座が合併し、財団法人淡路人形協会となる 2014年4月1日 公益財団法人に移行</p>				
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2016年 姫路市立大塩小学校、明石市市民会館、渋谷区文化総合センター大和田 2017年 淡路市立学習小学校、姫路市立大津茂小学校、国立劇場 2018年 丹波市立ライブピアいちじま、白河市文化交流館、草加市文化会館、 伊丹市立伊丹高等学校、姫路市立網干西小学校、稲美町立母里小学校、 北海道平取町内小中学校、札幌市こどもの劇場やまびこ座、兵庫県立津名高等学校 2019年 兵庫県立洲本高等学校 2020年 兵庫県立西宮東高等学校、南あわじ市立北阿万小学校、洲本第一小学校 2021年 兵庫県立高砂高等学校、淡路市立志筑小学校、南あわじ市立辰美小学校、 神戸市立高羽小学校、淡路島内小中学校ワークショップ(24校)、 奈良県生駒市立生駒南第二小学校 2022年 淡路市立石屋小学校、淡路島内小中学校ワークショップ(34校)</p>				
<p>特別支援学校等 における公演実績</p>	<p>2012年 長崎県立大村支援学校 2014年 北海道八雲養護学校</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=OuSQ19J5Xx0</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 淡路人形座 】

対象	小学生(低学年)	○	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	500年の伝統芸能～「淡路人形浄瑠璃」って楽しいよ！		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>人形芝居 「戎舞」 淡路人形に伝わる神事(エビスカキ)を舞台用に脚色した演目 人形浄瑠璃 「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 原作:近松半次・三好松洛他</p> <p>【プログラム構成】 1. あいさつ 2. 人形芝居「戎舞」 上演 3. ワークショップ「人形浄瑠璃教室」 太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの役割を体験も交えてわかりやすく説明します。 (休憩:約10分) 4. 「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 上演 5. 質問コーナー</p> <p>※団体と学校側のスケジュール調整がつけば、クラスごとに座員とのふれあいタイムを設けます。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	<p>【戎舞】 五百年の歴史と伝統を誇る、国指定重要無形民俗文化財の淡路人形浄瑠璃。淡路島の人形操りの起源については、諸説ありますが、中世に摂津国西宮(現在の兵庫県西宮市)のエビスカキと呼ばれる傀儡師(くぐつし・人形遣い)が島に移り住み伝承したと伝えられています。エビスカキは、西宮戎神社の信仰を広めるため、戎神の人形を舞わせご祈祷し、お札を配って歩いた芸能集団で、江戸時代の文献にもこの傀儡師の移行があったことが記されています。これが今日まで伝承されている「戎舞」です。島内でも昭和初期までこの風習が続き、各家には座本名の入ったお札も現存しています。</p> <p>劇中では、福の神・戎さまが庄屋の家にやって来て、振る舞い酒の杯を重ね、生い立ちなどを語りながら舞い踊ります。その後、舟で沖に出て大きな鯛を釣りあげるといってお話です。</p> <p>中世から伝承され、その様式美を今に伝える「戎舞」には、戎顔でおおらかな心を持ち、どんな困難にも前向きに生きていくという庶民の幸せへの祈りが込められています。戎さまは庶民の願い事を叶えようと、御神酒を飲み、祈り、そして幸せを運びます。酔っ払った戎さまは、心豊かに楽しく笑いも交え、表現力豊かに本当に命が宿っているように舞います。その単純でわかりやすい内容は、幅広い年齢層に理解していただけます。</p> <p>【本朝廿四孝 奥庭狐火の段】 本作は、近松半次・三好松洛・竹田因幡・竹田小出・竹田平七・竹本三郎兵衛の合作で人形浄瑠璃をはじめ歌舞伎、日本舞踊等で演じられる人気の演目です。全五段の時代物で明和3年(1766)1月より大坂の竹本座での初演以降、人気外題のひとつに名を連ねました。中でも「奥庭狐火の段」は、三味線と連れ弾きや琴が奏でる名曲「狐火」と、人形と人形遣いが一瞬で衣装の早替りをする演出がみどころで、視覚的にも音楽的にも優れ、人形芝居独特の華やかな魅力が溢れる演目です。</p> <p>あらすじは、甲斐の武田信玄と、越後の上杉謙信は長年にわたり敵対しており、それを憂いた將軍足利義春が両家に和睦を命じ、信玄の子・勝頼と、謙信の子・八重垣姫の婚儀が決まりました。しかし、將軍が何者かに暗殺され、両家に疑いがかりました。両家は犯人を見つけ出せなかったために、勝頼は切腹を命じられます。悲しみに暮れる八重垣姫でしたが、死んだのは偽者で、本物の勝頼は花作りに身をやつして生きていたことを知ります。父謙信もその秘密を知り、勝頼に刺客を差し向けるのです。八重垣姫はそのことを勝頼に知らせようとするが、姫の足では刺客に追いつけず、おまけに諏訪湖は凍っているため船を出すこともできません。そこで奥御殿にまつた諏訪明神の力が宿る武田家の重宝・諏訪法性の兜にお祈りすると、不思議な事に狐が現れます。八重垣姫はこの兜を手にして、ここかしこに燃え立つ狐火を力に、飛ぶが如くに勝頼のもとへと急ぎ向かう。といった内容です。</p>		

<p>演目選択理由</p>	<p>人形浄瑠璃は、太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの三業が一体となった総合舞台芸術です。本事業では、人形浄瑠璃独自の三業の体験を通して子どもたちのコミュニケーション能力や想像力、思考力を豊かにします。</p> <p>公演鑑賞では、人形浄瑠璃を伝承するプロの劇団員が演じる日本の伝統芸能を、間近で生で見ることにより、子どもたちはその魅力をダイレクトに感じることが出来ます。また、鑑賞体験を通じ、子どもたちが舞台芸術に興味関心を持つことで、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操や感受性を養うことができ、鑑賞能力をより高めることが期待できます。</p> <p>①「戎舞」は、中世に起源をもつ人形芝居の原点とも言える様式を伝承する数少ない演目のひとつです。本公演では、戎さまに御神酒を注ぐ庄屋の使用人役を子どもたちが実演することで、人形の三人遣いによるコミュニケーションの大切さや意思伝達や行動を表現する方法を学ぶことができます。見ている子どもたちも同様に、どのようにお互いが協力しあえているか、どんな工夫が必要かなどを客観視することで、自己の考えを広げ深める、思いや考えを基に創造したりすることができるようになります。</p> <p>芝居は、単純でわかりやすい内容なので、演じる側も鑑賞する側も、同時に芝居の楽しさが理解でき、幅広い年齢層が積極的に取り組めるため、この演目を選択しました。</p> <p>②「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」は、人形浄瑠璃、歌舞伎や日本舞踊といった日本を代表する伝統芸能でも演じられる人気の高い名作のひとつです。淡路人形浄瑠璃特有の人形や人形遣いの早替り、三味線と琴の連弾き、華麗で優美な八重垣姫のほかに神の使いの狐がコミカルな動きで登場するなど、アツと驚かせるようなケレン味あふれる演出が盛り沢山の演目で、子どもたちの興味や関心がおのずと高まり、劇中に歓声が上がると各地域の学校公演でも好評を得ています。500年の歴史と伝統を誇る淡路人形浄瑠璃の魅力の十二分に感じてもらえることが期待できる演目なので選択しました。</p>		
<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>①「戎舞」の公演では、淡路人形座の座員と一緒に舞台上で共演していただきます。子どもたちには、戎さまに御神酒を注ぐ庄屋の使用人役の人形を、三人遣いで演じていただきます。また、この演目には、戎さまが人々の願い事を祈る場面があります。事前に子どもたちに願い事を書いてもらい、劇中で太夫がその願い事を語ることで、鑑賞者と演者との一体感が促進され、会場はより一層盛り上がりです。</p> <p>②「人形浄瑠璃教室」では、太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの役割などを体験も交えて解説します。太夫の体験では、全校生で「笑い」をテーマに色々な人物の語り分けを実演していただきます。太夫とともに全員が一斉に声を出して、劇中さながらの義太夫節の体験をすることにより、豊かな情操を育みます。三味線弾きの体験では、子どもたちに手拍子を打っていただき、そのリズムに合わせて芸員が三味線を演奏します。人形遣い体験では一体の人形を三人で遣う、人形浄瑠璃特有の三人遣いを体験することにより、協調性や表現力、発想力を養うことができます。</p> <p>③「本朝廿四考」の公演前に、人形浄瑠璃を楽しく鑑賞する方法を、体験型の手法を用いて分かりやすく説明します。例えば「この場面で一斉に拍手をしたらうと、より一層、芝居が盛り上がるので、座員の合図に合わせてみんなで拍手をしましょう。」といった舞台を盛り上げる全体練習を行いながら、子どもたちと座員とのコミュニケーションを図り、伝統芸能の魅力や醍醐味について学びます。</p>		
<p>出演者</p>	<p>○太夫(語り):竹本友庄、竹本友里希、竹本友富士、竹本友禎 より2名</p> <p>○三味線弾き:鶴澤友勇(2015年重要無形文化財義太夫三味線保持者認定)、鶴澤友弥 2名</p> <p>○人形遣い:吉田新九朗、吉田史興、吉田徳蔵、吉田廣の助、吉田光太郎、吉田幸路、吉田千紅、吉田青豊、吉田松永、吉田明玉 より7名</p>		
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 11 名</p> <p>スタッフ: 2 名</p> <hr/> <p>合計: 13 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 1.5 t</p> <p>車長: 5.1 m</p> <p>台数: 2 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時30分	8時30分～11時	13時～15時	10分	15時～17時	17時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
				5日	10日	
	11月	12月	1月	計	30日	
	5日		10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	舞台上での共演は9名程度
		鑑賞人数目安	500名程度

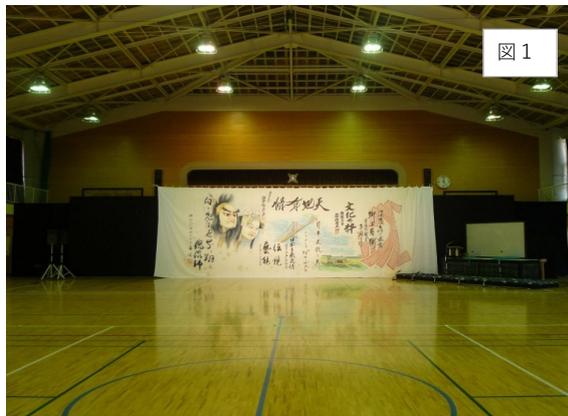


図1

(図1)

体育館フロアに舞台を設置した場合(児童・生徒の人数が多い場合はステージで上演する場合があります。)

舞台設置に必要な面積
約18m×6m

(図2)
児童・生徒が座員と戎舞で共演している風景
事前にワークショップでお稽古をし、
また、公演前にもリハーサルを行い本番に臨みます。



図2

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。



図3

(図3)

本朝廿四孝の上演風景

人形浄瑠璃とは、物語を語る太夫(たゆう)、音を奏でる三味線弾き、1体の人形を3人で操る人形遣いの技が1つになった総合芸術です。

本朝廿四孝では、淡路人形浄瑠璃の得意とする、人形遣いの衣装や人形が一瞬にして変わる、早替りの演出などで楽しんでいただけます。

【公演団体名 淡路人形座 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	参加人数:1学年(100名程度)まで
<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>『淡路人形浄瑠璃のお話』(歴史や太夫、三味線弾き、人形遣いの三業を楽しく、わかりやすく) ①映像を活用し、人形浄瑠璃の歴史、お芝居のあらすじや劇中の雰囲気などをわかりやすく説明します。 ②太夫のワークショップでは、義太夫節や独特の発声方法などをわかりやすく説明します。床本(太夫が舞台で使用する、普段見慣れない特徴のある浄瑠璃文字で書かれた台本)を使い、太夫の発声方法で「武士」「お姫様」「お年寄り」「子ども」などの人物のセリフを語って、その違いを実感していただきます。 ③人形遣いのワークショップでは、一体の人形を三人で操作する三人遣い、即ち、頭(カシラ)と右手を遣う「主遣い」、左手を遣う「左遣い」、足を動かす「足遣い」のそれぞれのパートの遣い方や人形本体の構造をわかりやすく説明します。 児童・生徒には、実際に三人一組で人形を遣っていただきます。本公演では、代表9人の児童・生徒に「戎舞」で共演していただきます。 ※それぞれの役割が持つ技や表現方法の難しさ、演じることの楽しさを体験しながら、座員と子どもたちとの間にコミュニケーションを醸成していきます。</p>		
<p style="text-align: center;">ワークショップの ねらい</p>	<p>太夫ワークショップで、本公演「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」の主人公、八重垣姫のセリフを練習し、語っていただきます。練習した場面が本番で登場するため、子どもたちは、自分とプロの太夫との違いが目の中の舞台ではっきりとわかるので、より一層の興味や関心を持って鑑賞することができます。普段触れる機会がほとんどない義太夫節を体験し、独特の発声方法や節回しなど古典の面白さや奥深さ、また、複数の人物をひとりで演じる高度な技芸とその魅力を学んでもらいます。</p> <p>人形遣い体験では、児童・生徒でも持ちやすいように、軽く扱いやすい人形を用意しています。一体の人形を三人で息を合わせて遣うことにより、協調性や相手への気配りを学ぶことができ、子どもたち相互のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とします。共演では、座員との異世代間の交流によりプロの技術を教わることで、表現方法の工夫や演じることの楽しさ、「本物の舞台芸術」に親しむ貴重な体験の機会となります。</p> <p>太夫・三味線弾き・人形遣いの三業のワークショップを通じて、伝統芸能ならではの知恵と技の継承を学びます。舞台上で三業を融合させるためには、それぞれが受け持つ役割を理解し演じることで、お互いの連携が非常に重要であることがわかります。自分が伝えたい意思や感情をどのように表現すればよいのか、そのためにどんな工夫や協力が必要なのかなど、子どもの成長にとって必要不可欠な発想力やコミュニケーション能力、豊かな情操を育むとともに、人形浄瑠璃に対する理解や関心を深めることを目的としています。</p>		
<p style="text-align: center;">その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>担当の先生と事前の打ち合わせを十分行ないます。基本的に公演の内容変更はできませんが、児童・生徒のみなさんに太夫(語り)・三味線弾き・人形遣いの三業の体験をしてもらえるよう、体験内容についての相談をさせていただきます。</p>		